

# 民児連広報

発行 令和6年3月31日  
旭川市民生委員児童委員連絡協議会  
旭川市5条通4丁目  
旭川市ときわ市民ホール1階  
旭川市社会福祉協議会内  
電話0166-56-0150  
発行人 佐川 徹

## 久しぶりの広報誌発行 「明るく・楽しく・元気よく」



旭川市民生委員児童委員連絡協議会  
会長 佐川 徹

民生委員児童委員の皆様におかれましては公私とも大変お忙しいなか、毎日の活動にご尽力を頂きまことに有り難うございます。心より感謝申し上げます。

今年は元旦に発生しました能登半島地震で二四〇名を超える多くの方がお亡くなりになりました。家屋の全損壊や大規模な火災により甚大な被害が発生し、現在も多くの方が避難生活を続けておられます。幸い今のところ（二月末日現在）、民生委員児童委員の人的被害は全民児連からは報告されていませんが、家屋の被害に関しては相当数の方の被害が報告されると思えます。今後、民生委員児童委員による長期に渡る住民支援活動も想定されます。この度、皆様には無理の無い範囲での災害支援金のご協力をお願いしたところ多くの温かい支援

金を頂き早速、道民児連に送金させて頂きました。被災された皆様には、あらためてお見舞いを皆様とともに申し上げる次第です。

さて、各地から桜の開花の便りが届き始め、旭川市も三月に降った雪もかなり減り、道路状況もよくなり、活動が遣り易くなってきたことと思います。春が直ぐ近くまで来ている気配を感じさせます。間もなく、ピカピカの小学校一年生が元気に登校する姿、『おはようございます』『行ってらっしゃい』『行ってきます』と通学路で声が聞かれる日々が来ます。新型コロナウイルス感染症も二類から五類に移行して、やっと普段の日常を取り戻し始めました。感染対策を講じながらの活動、大変だったと思います。久しぶりの民児連広報誌ですが、色々問題にも直面しまし

た。何で、『民生委員がやらなければならぬ』と言った声も聞かれました。『民生委員だからやるんだ』『誰かがやらなければならぬ』と私は自分に言い聞かせて活動をしていました。多分皆さんも同じだと思います。今年は、主任児童委員制度三十周年です。主任児童委員の方々には、今まで以上の活躍を期待いたします。

今、私達の取り巻く環境は、『いじめ問題』『児童虐待』『ヤングケアラー問題』などなど、数多くの案件を抱えております。しかし、私達はプロではありません。判断を下す立場にはありません。何か案件があれば、最寄の関係部署に報告連絡をして、速やかに解決できるようにお手伝いをする事です。

本来ならば、旭川市の民生委員児童委員創設一〇〇周年記念事業として実施の企画を持っておりましたが、新型コロナウイルス対策などのために延期をし、今年度ようやく実施の運びとなりました。初めて全市の小学生五・六年生（四八四二名）を対象に民生委員児童委員に関する作文コンテストを実施。応募数（二十五小学校）は予想をはるかに超える六六五編でした。選定には総務部担当委員、旭川市社会福祉協議会役員の方々など

が大変な日数と時間を費やして審査をされました。この審査発表・表彰式は五月十八日の旭川市民児連大会で行う予定です。例年五月十二日に開催されておりましたが今回は児童の方の表彰式を行いますので、授業の無い日に設定いたしました。初めての事業ですが、回数を重ね、民生委員児童委員を多くの皆様に認識して頂く一助になればとも思っています。

『なり手不足』とか『なり手確保』とか言われておりますが、先ず小さな事からでもやらなければ解決しないと思えます。「種を蒔かなければ何も芽生えては来ない」。

令和七年九月には昭和五十七年以來の全国大会が札幌で開催されます。皆様にもお手伝いをお願いするかもしれません。その際には快くお願い致します。また、令和六年度からは五月十二日が『民生委員児童委員の日』として登録・公認されました。何事も継続が大事です。リスクはありますが、今年も皆さんとともに、『明るく・楽しく・元気よく』をモットーに活動していきたいと思えます。宜しくお願い致します。







# 小学生「作文コンテスト」

## 最優秀賞

### 「お互い様」の気持ち

北海道教育大学附属旭川小学校

五年 本間 明華

所の子どもに家庭菜園のミニトマトをあげたりしている様子をよく見かけます。私を紹介してくれることもありすが、知らない人と話す恥ずかしさもありません。関わることはありませんでした。

冬休み中、大雪の日がありました。夕方、私を習い事へ送る母の車が家から数メートルの所で埋まり、動けなくなりました。通りがかったお兄さんドライバーが、「大丈夫ですか。ハンドルをまっすべにして、一度バックをしてみてください。」と声をかけてくれました。除雪中の近所の人たちも、スコップやヘルパーを持ってすぐ集まって、タイヤの前をほり、後ろから車をおしてくれました。お陰で母の車は脱出し、無事に家に帰ることができました。

私は新しい家に引っ越して一年になったばかりで、近所にどんな人が住んでいるのか、あまり知りませんでした。けれどこの出来事をきっかけとし、自分と町内に住む人たちの関わりについて考えるようになりました。

夏休み、祖父に誘われラジオ体操に参加しました。若いお父さんがお手になり、スタンプを押しお菓子を配ってくれました。子ども他にも、お年寄りの方もたくさん来ていました。祖父が、「青年部の人たちが頑張ってくれているから、うちの町内会は参加率がとても高いよ。」と、誇らしげに言っていました。他にもごみ拾い、七夕、夏祭り、新年会など色々な町内会行事が、長く続けられているそうです。祖父が町内会のモットーは、「安全、安心、親睦」と教えてくれました。私の住む町内でも、明るく楽しく安全に暮らせるよう、皆で協力して町内会の運営をしていることを知りました。

また、消防、自衛隊が行方不明者を探す際、「あの人は、この部屋で過ごすことが多かった。」という近所の声が救助につながることもあると聞きました。被災地で、皆で助け合い危機を乗り越えようとする人々の姿から、普段のご近所付き合いや、声かけの大切さを教わりました。

あの大雪の日、お礼を言うと、「お互い様ですから。」と答えたドライバーの方の言葉が心に残っています。これから私も、近所の人に明るく挨拶をしたり、困っている人がいたら、「お互い様」の気持ちで気軽に声かけをしたいです。町内行事にも積極的に参加し、お手伝いをしたいと思います。

## 優秀賞1

### 地域の関わりを大切に

旭川市立旭川小学校

六年 武藤 歩

ぼくは時々町内会の活動に参加しています。その内容は、花だんの花植えや公園の清そうです。参加している人は高い者が多く、ぼくの知らない人がほとんどです。父の話だとコロナウィルスの流行で町内会のイベントはだいぶ減ってしまっただけです。そのためか学年がちがう同じ町内の小学生でもよく知らない人が多いです。

今年元日、石川県能登半島で大きな地震が発生し、「令和六年能登半島地震」と名付けられました。テレビを見ると現場では、近所の人たちが「早く、にげる」と声をかけ合ったり、知り合いの無事を案じたりする人たちが大勢いました。また避難所に必要なもの（食べ物など）を持ち寄って助け合いはげましている様子を見ました。ぼくはそのニュースを見て、「ぼくの町内で同じような大きな地震が起こったらどうだろうか。」と考えました。

もしこの時、近所の関わりがうすいとどうなるでしょうか。まず声をかけるのに勇気がいります。その人がどのような人がよく分からないからです。次に情報交換ができません。何が起きているのか分からなくなるかもしれません。それに、足りない物があった時、助けを呼ばなくて困ってしまうかもしれません。

## 優秀賞2

### ぼくが地域のためにできること

旭川市立神居東小学校

五年 青木 慧悟

ぼくが住む町には、カッコいい大人の人たちがたくさんいます。そのうちの一人は、ぼくの父だ。父は町内会の「青少年育成部長」で、地域の子どものために、いつも色々な活動をしてくれる。

例えば、夏休みにはラジオ体操のお手本をみんなの前で見せてくれたり、スタンプカードにハンコを押してくれたり、参加した後はおかしを配ってくれる。ぼくはおかしをいっしょに買いに行ったり、ふくろに入れたりするお手伝いがとても楽しんだ。他にも、花火大会やクリスマスパーティーなど、楽しいイベントが盛りだくさん。そのたびに、父をはじめ、たくさん近所の人たちがみんな協力し合い、助け合っている。そ



の姿がとてもたくましく、ほくはかつこ良く見える。

「コナが流行った時は、こうした活動がなかなかできなくて残念だったけれど、またできるようになったことが、ほくはとてもうれしかった。

一月にはいったり、新年もちつき交流会があることを、ほくは楽しみにしていた。でも元日に家族で買い物に行っていた時、母がおどろいた声を上げたので、ほくはびっくりした。母が大学生の時に過ごした石川県で、大きな地震が起こったからだ。たくさんの人が亡くなった。そして今もまだ、たくさんの人たちが家にもどれなくて、大変な思いをしている。母のお友だちやお世話になった方もまだ、たくさん住んでいる。毎日流れてくるニュースを見ながら、心配している母の様子を見て、ほくはとても悲しい気持ちになった。

でも、そんな大変な状況の中でも、くずれて押しつぶされてしまった家にはさまれた人を、近所の人たちが協力し合って助け出したというニュースを聞いた。「能登の人たちはふんだんから近所さん同士で声をかけ合い協力し合って生きている。だから、こうした大変な時にも、おたがい助け合い、支え合う精神が、こうしたときをおこしてくれただね。」と母が話してくれた。

母の話を聞いて、ほくはふんだ

から近所の人たちとつながる大切さを改めて知った。

ほくが近所の人とつながるために、できることは何だろう。まずは、小学校から預かったお便じを、町内会長さんに届けること。そのお便じが回覧板にはさまっているのを見ると、ほくはちよびりうれしくなる。次は元気よくあいさつをすること。以前はあいさつをしていたけど、最近は少しはずかしくて、あいさつをせずに通り過ぎてしまふことがある。これからはもっと自分から積極的に、近所のおじさん、おばさんと顔を合わせて、笑顔で元気よくあいさつしたい。ほくの元気な声がみんなになつてくれたらうれしい。そして、ほくがあこがれる父のように、地域の中でも活やくして、人のためにがんばれる大人になりたい。

### 優秀賞3

## 支え合いの輪を 広げよう

旭川市立神居東小学校

六年 佐久間 安里

ある日、学校から冊子が配られた。表紙に大きく書かれた「みんせい」という文字が私の目に留まった。「みんせい」って何だろう。初めて聞く言葉に興味を持ち、ページを開いてみた。その言葉は、民生委

員・児童委員のことで地域を守るボランティアということがわかった。ページの中に「地域包括支援センター」や「社会福祉協議会」など知っている言葉があった。父が家で話していたからだ。ここで一つ疑問が浮かんできた。それは、父の働く施設の方々と民生委員はつながりがあるのかということだ。父に聞いてみた。

私の父は、認知症の方々が生活している施設の介護支援専門員だ。父の職場では町内会に加入していて、入居者の方々と一緒にラジオ体操や「ミ」拾いに参加したり、父の職場で会議をする時は、町内会長や民生委員の方にも参加していた。町内会の困りごとなど情報交換しているそうだ。

また、父の話によると、こんなこともあったそうだ。地域で暮らす一人暮らしの認知症の高齢者の方が出て、その方は、家の場所がわからなくなると、帰れなくなり迷子になってしまった。それを知った町内会が、大丈夫かと心配になり、民生委員に報告した。民生委員が実際にその方の様子を見に行き、

一人暮らしは難しいと考え、地域包括支援センターに伝え、そこから父の施設で暮らすことになったそうだ。他にも、認知症の一人暮らしで、家が「ミ」屋しき、訪問販売の言いなりになってしまい高い物をたくさん買わされてしまつ方がいたが、同じく町内会が発見

し、民生委員、地域包括支援センターへとつながり、父の施設に入居したことで、その人を守ることにできたそうだ。

父の話を聞いて、認知症になつてもその方が困らないように、民生委員などいろいろいる人が支えてくれていることがわかったし、私も安心できると思った。母の実家は高齢者三人で暮らしていて、私たちとは離れて生活しているから、困っている時にすぐに行けないかもしれないので心配だ。でも困った時があったら、地域の人が気づき、民生委員につないでくれ、助けてくれるかもしれない。

現在は、民生委員のなり手が少ないらしい。民生委員をしている方々は、相手の立場になって考え、寄りそうことができる、心の優しい方々なのだろう。私も、そのような大人になることを目指し、誰もが安心して生活していけるように、地域の方々と支え合いながら日々を過ごしていきたい。

### 優秀賞4

## 僕に今できること

旭川市立愛宕東小学校

五年 宮 田 桜太郎

僕の家の裏には小さな公園がある。サッカーの練習をするには十分な大きさで、夏になると毎日のように友達と行く場所だ。とな

りにはスーパーがあるせいか、よく「ミ」が落ちてくる。ほくはいつも見て見ぬふりをして遊んでいた。ある日、家に帰ってきてから飲み終わった水の容器の「ミ」を公園に置いて帰ってきてしまったことに気づいた。家に帰宅し、くつろいでいた時だったので、もう公園に戻るのをやめた。

心のどこかで、皆が捨ててくれる方がいいだろう。と、そんな気持ちで僕にはあった。いつだって人任せだ。

そんな公園でいつも会うのは可愛い子犬のリンちゃんだ。飼い主の藤井さんはいつも大きな声であいさつしてくれる。「ニコニコしたお母さんだった。毎日のように声をかけてくれて、サッカーの練習をしていることをほめてくれたり、リンちゃんと遊んであげるといつもお礼を言ってくれた。いつ日か公園で会話を交わすことが楽しみになっていた。

その藤井さんは犬の散歩と同時に袋を持って公園とその周りの「ミ」拾いをしていることに気づいた。

ある日、手作りの看板を作り、公園に立てかけていたのを見た。「ミ」を置いていかないとダメだよ。と手書きで書いたそれは決してカッコいい看板ではなかったが、それから少し落ちていた「ミ」が減った気がした。町をきれいにするようと行動している姿を見て、自







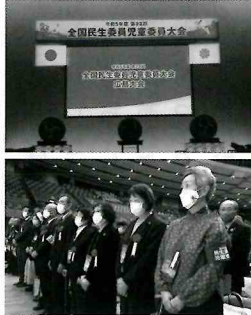
# 令和5年度 第92回 全国民生委員児童委員大会 参加報告

(令和5年11月21日,22日)広島グリーンアリーナ

11月19日旭川を出発、松山空港に到着し、その後広島の「平和記念公園」等の施設見学を行いました。21日、広島グリーンアリーナに入り、大会に参加しました。13時30分から式典が始まり、全民児連会長挨拶などの後、全民児連会長表彰の中で当旭川民児連末広東地区民児協の早川隆子会長が**優良民生員児童委員協議会表彰**を受賞されました。

式典の後の特別講義では、皆さんも見た方がいるかもしれませんが、認知症の母と老老介護する父の姿を娘の視点から描いたドキュメンタリー映画「**ぼけますから よろしくお願ひします**」を制作した「**信友 直子**」さんの講演でした。本人は仕事の関係で離れて暮らしていましたが、その間の地域とのかかわりを映画の一部を使用しお話いただき、最後に「地域に世話になることの重要性和将来自分も民生委員をやりたい」と閉めていただいたことが印象深かったです。この映画を見てない方は、是非見て欲しいと思います。

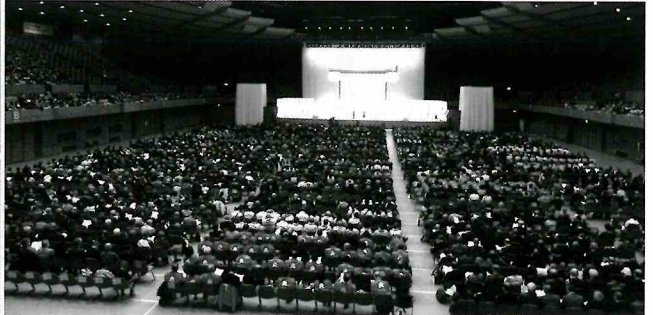
一日目の大会終了後、北海道地方が会場からの退席の際は、会場の皆さん



から、ひときわ暖かて大きな拍手が送られ ちょっとうれしい気持ちに包まれたことも合わせて報告いたします。

翌日は、**活動交流集会シンポジウム1**に参加し、「**災害に備える地域ぐるみの体制づくりに向けて**」と題して開催され、大会が終了しました。

帰りは岩国空港から帰路につき午後7時30分ごろ全員無事に旭川に着きました。私は、初めての四国から広島への行程で旅行日程が組まれ、見聞が広められたこと、また、事務局はじめ同行の各地区会長さんとの繋がりが深まったことを感謝し報告いたします。《江丹別地区民児協 浅野正一》



## 退任の挨拶

二〇二四年三月末をもって、旭川市民生委員児童委員連絡協議会の事務局長を退任することとなりました。一年八か月という短い期間ではありますが、在任中、皆様からのご支援、ご協力、教え、愛情心遣い、温かさ…、随分と楽しく一緒に働かせていただき、とても貴重な時間となりました。心より感謝申し上げます。

私の事務局就任時は、年度途中であるとともに、一斉改選を間近に控えており、右も左も解らない毎日、私だけでなくきつと皆さんも不安を感じていたと思います。常任理事会での段取りや進め方、読みやすい資料の作成など、一から教えていただいたことを覚えています。様々な研修にも一緒に行かせていただき、民生委員児童委員がこんなにも学ぶ機会がある

り、専門性を持って日々の地域福祉に取り組んでいることを知り驚きました。一泊の研修や全国大会でも、こんなに楽しく笑って一緒に居て良いのかと思うほど思い出があり、残っている写真には恥ずかしいながら私の笑顔がとても多いことを嬉しく思っています。

就任当初は、民生委員児童委員の地域で果たす役割を知りませんでした。ですが、事務局として関わったことはとても大きな財産です。自分たちの住む地域に、支えてくれる人がそばにいるという心強さは、とても大きな安心だと言ったことを知りました。「民生委員さんって凄いなだよ」と言えるようになったのは皆さんのおかげです。民生委員児童委員が地域にいらることを心強く思い、これからも一緒に活動していけることができると思っています。

## 謹んでご冥福をお祈りいたします

近文・川端地区	山本 みよ子 委員(令和2年12月5日逝去)
愛宕地区	大杉 由樹 委員(令和3年2月6日逝去)
東鷹栖地区	遠藤 正光 委員(令和3年5月8日逝去)
忠和地区	白石 宏志 委員(令和3年12月18日逝去)
西第1地区	西勝 洋一 委員(令和4年1月30日逝去)
末広南地区	服部 勝子 委員(令和4年3月14日逝去)
緑が丘地区	大内 巖弘 委員(令和4年9月7日逝去)
千代田地区	尾坂 進 委員(令和4年10月23日逝去)
北星地区	吉田 勝弘 委員(令和5年3月1日逝去)
中央地区	菅原 あけみ 委員(令和5年9月6日逝去)
西第1地区	岩野 民子 委員(令和6年1月30日逝去)

## 編集後記

5年ぶりに民児連広報誌を発行することができましたことに大きな意義を感じております。この間、コロナ禍等諸事情が重なり休刊となりましたこと、誠に申し訳ありませんでした。今回は、新事業の市内小学生「作文コンテスト」の特集としました。子どもたちの素晴らしい作文から、それぞれの思いを感じ取っていただければ幸いです。今後は、委員相互の意識共有の場となる広報誌にしていきたいと思っております。ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。《旭川市民児連広報誌編集委員一同》

私が福祉に関わりたいたいと思っから二十五年経ちました。今でもその時抱いていた気持ちは変わりません。「道なき者の道を、声なき者の声を届けたい」と思っている仕事に就きました。まだまだ満足のない仕事はできていませんが、これからも自分のできることを目指していきたいと思います。

とても充実した日々でした。佐川会長を始め三役の皆さん、各地区の会長や地域の委員の皆さん、そして行政の担当課の皆さん、何もわからなかった私に色々とお話をいただき、心より感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。お世話になりました、本当にありがとうございました。

柴田 淳